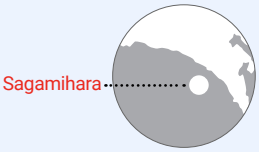
Google for Education

GIGA スクール推進校として Chromebook を先行導入 組織全体での ICT 活用推進で多様な成果につなげる 相模原市立中野中学校

神奈川県北西部にある相模原市立中野中学校は、全校生徒約 300 人の中規模校です。津久井湖の湖畔に位置し、自然豊かなロケーションが特徴です。同校は GIGA スクール構想を牽引する市の推進校として、新型コロナウイルスの感染拡大が始まって間もない 2020 年 6 月から Google Workspace for Education（以下、Google Workspace）を先行導入し、教育への ICT 活用に力を入れてきました。同校で推進役を担う 2 人の教員に話を伺います。



相模原市立中野中学校

神奈川県相模原市緑区中野 960 番地
http://www.sagamihara-nakano-j.ed.jp/

1947 年開校。2 年後に津久井湖畔の現在地に移転する。"憲政の神様" 尾崎行雄の出身地としても知られる旧津久井町の自然に恵まれた環境に立地。学校教育目標は「社会を生き抜く力と未来を切り開く積極的な意欲を備えた、豊かな人間性・創造性と確かな学力を持つ生徒の育成」。2020 年 6 月、相模原市から GIGA スクール推進校の指定を受ける。市内では中規模校で、各学年 3 クラスに加えて特別支援学級を有する。全校生徒は 309 人、教員は 28 人。

Chromebook 337 台

01

リモート修学旅行など 実際には難しい体験をオンラインで実現

新型コロナウイルスの感染拡大が始まった 2020 年、相模原市では国の GIGA スクール構想を前倒しで実施するため、ICT 活用事例の起点となる推進校を選定しました。選ばれたのが中野中学校です。

同校は自然豊かな環境にあり、穏やかな生徒が多いと、総括教諭・教務主任（保健体育担当）で GIGA スクール構想の推進リーダーも務める梅野哲氏は話します。一方で、主体的に発信する姿勢が積極的に見られないことが課題だったと梅野氏。他校に先駆け 1 人 1 台端末が導入されることが決まり、ICT の活用で主体的な行動や発信力が高まることを期待したといいます。

市教育委員会は、GIGA スクール構想のソリューションとして Google for Education の導入を決定しました。1 人 1 台端末としての Chromebook が前倒しで同校に配布されたのは、2020 年 9 月のこと。その夏の臨時休校措置が明けた直後で、まずは当時の 3 年生分から配布がスタートしています。

相模原市立中野中学校

総括教諭 教務主任
梅野 哲 氏

同校では、Google のソリューションを使うのは初めてでした。教育委員会で Google for Education が選ばれたと聞いたとき、「Google という名前と検索サービスはもちろん知っていましたが、Chromebook と Google Workspace のことは認知していませんでした」と梅野氏。「不安はあったものの、新型コロナウイルスの感染拡大による休校で先が見えず、"やるしかない" 状況でした。またいつ臨時休校になってもおかしくなかったですし、とにかく覚えていこうと必死でした」と振り返ります。

校務で使っていたものとは異なる OS の端末、そしてクラウドサービスという新たなスタイルのアプリケーションを使うことになったうえ、やはり ICT 活用に抵抗がある教員もいました。まずは教員側の研修が必要だと考えた梅野氏。「せっかくの ICT も使わなければ宝の持ち腐れです。教員に ICT 活用の意義を理解してもらい、生徒たちのために全員で力を合わせ進めていこうと取り組みを始めました」と話します。マニュアルを作成したほか、梅野氏と、同じく ICT を推進する立場の岡本一朗氏が先生役・生徒役になり、実際の授業スタイルの研修を何度も繰り返したといいます。

相模原市立中野中学校

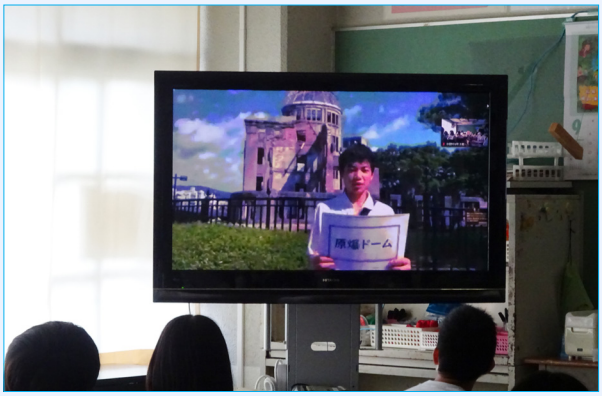
教諭 校内研究主任
岡本 一朗 氏

最初の数か月は、どう活用すればいいのか手探りの状態だったといいます。当時はまだ校内の無線 LAN 回線が細く、多人数で一斉接続できないケースもしばしば発生しましたが、2020 年 9 月に最初に Chromebook が配布された 3 年生は、学年全体で Chromebook と Google Workspace の浸透に取り組みました。そして 10 月になり、1、2 年生にも Chromebook が配布され、いよいよ本格稼働が待ったなしとなりました。

「コロナだからとあきらめたくはなかった」という梅野氏の思いから、さまざまな活用方法を模索していた同校。転機となったのが、オンラインで離れた場所とのリアルタイム交流を可能とする Google Meet に着目したことです。

この年の 3 年生の修学旅行は 6 月に予定されていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大による影響で実施できませんでした。そこで、オンラインでの代替イベントを考案したのです。

「最初に革新的だと感じたのが Google Meet でした。これを使えばリモート修学旅行が可能になると考え、2020 年秋、広島の中学校とオンラインでつないだのです。広島から中学生がライブで平和記念公園を紹介してくれたほか、本校生徒が作った折り鶴を送って現地で献納してもらう様子をリアルタイムで見たり、オンラインで合唱をしたりといった交流を行いました。これをきっかけに、Google Meet の活用が広がっていきました」（梅野氏）



併せて、2 学期からは全学年で「とにかく使ってみる」ことを始めます。「まずは生徒たちのタイピング習得を目指しました。休み時間を含め空いている時間は自由に Chromebook に触らせ、ゲーム感覚でタイピングを学べるアプリも導入。タイピング力がある程度ついたところで、授業での活用を検討していったのです」と岡本氏。また、Google フォームや Google Classroom によって意見の集約・共有も容易になり、活用に向けた実感が強まっていったと 2 人は回顧します。

02

Google の各種ツールを有効活用し、生徒の主体性が伸びてきたことを実感

2021 年から、授業をはじめさまざまなシーンで ICT の利活用が普及していきました。同校では毎年秋に企業から職業について話してもらう会を催していますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響でリアル開催が難しくなった際は、アフリカでインフラ関連の仕事をする日本人の方から Google Meet で職業講話をしてもらいました。また、校区の小学校と定期的なオンライン交流も始め、これは現在も継続しています。

授業では、Google ドキュメント、Google スライド、Google フォームが主に使われていると岡本氏が説明します。

「たとえば英語では、Google ドキュメントの音声入力で英文を音読し、発音チェックに利用する教員がいます。Google スライドで画像を貼り付け、自分の好きなものを英語で発表する授業も行われています。また数学では、Google スプレッドシートのグラフ

機能を使い、生徒の学びのスピードが上がったという話も聞いています。そのほか、共同編集機能を利用したグループ学習や、Google Jamboard で自分の意見を書いた付せんを貼り付けて他の生徒と比較しながら考えるといった活用法も出ています」

授業だけでなく委員会や部活動、生徒の自治活動でも多彩に活用されています。「すべての活動で生徒たちが Chromebook と Google Workspace を自由に使っています」と岡本氏。Google Classroom を活用し、各教科の担当係の生徒が授業で必要な準備を促す、体育祭のダンスをリードする生徒がダンスの技術やポイントを発信する、といった主体的な情報共有が日常的に行われているとのことです。

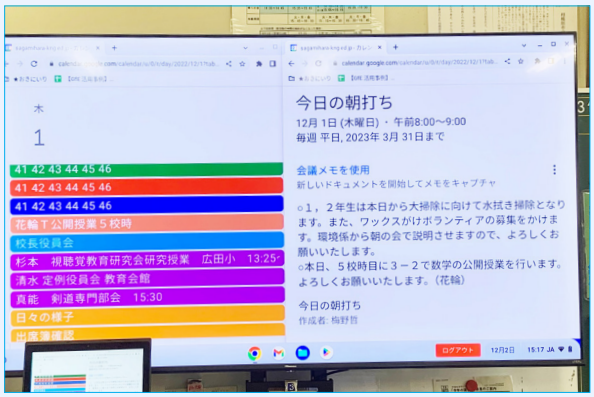
こうした取り組みの結果、93 %の生徒が自身のタイピング能力の向上を感じています。実際に教員から見ても、生徒たちの文章入力が速くなり、レポート等も手書きより書く量が増えたほか、人前での発言が苦手な生徒の意見も授業内でタイムリーに拾えるようになったということです。授業内でわからないことを自分で調べるようになったと答えた生徒も 90 %に達し、「主体的に学習に向かう態度が伸びてきました」と 2 人は感じています。

生徒が変化した具体的なエピソードとして、梅野氏は次の話を挙げます。

「委員会活動は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり会議の開催が難しく、2021 年度の体育委員長の生徒は Google ドキュメントのファイルを私と共有し、コミュニケーションを行っていました。この生徒は当初、文章をうまくまとめたり主体的に発言したりすることが得意ではありませんでしたが、ファイルのやり取りを繰り返す中で自信がつき、次第に発信力も身につけて、体育祭本番を迎えました。無事終了した後の達成感に満ちた顔が忘れられません」

一方、岡本氏は特別支援学級の授業を担当しています。

「支援学級には言葉がうまく話せない、文字が上手に書けないという生徒も多いのですが、Google Jamboard でキーボード入力や音声入力を使い、考えを周囲に伝えられるようになりました。文房具を持つとペンや消しゴムを分解することに意識がいってしまう ADHD（注意欠如・多動症）の生徒も、タッチパネルやキーボードだと持つ物がないので、課題に集中しやすくなっています。そのほか、音声入力で調べ学習ができたり、漢字が読めない生徒も拡張機能のフリガナのおかげで学習に取り組めたりと、授業に ICT ツールが入ることで実に多様な変化が生まれています」



03

ICT 浸透が校務の効率化にもつながる俯瞰的な視点での推進が効果的

教員たちにもさまざまなメリットをもたらしています。まずは、Google フォーム、Google Classroom、Google スプレッドシートを活用した情報の共有と記録。生徒の意見集約、集計、結果のフィードバックがスピーディーに行えるようになったほか、各種アンケートやテストの実施にかかる手間も大きく減りました。

会議では、従来のように紙資料を印刷して配る必要がなくなったうえ、効率的に情報共有できているとのこと。「会議時間は概ね 3 分の 2 に短縮でき、浮いた時間を教材研究やプライベートの時間に充てられるようになっています」と梅野氏。当然、紙購入や印刷のコストも減っています。ほかにも、Google カレンダーで年間活動計画や時間割、打ち合わせ内容を共有し、いつでもどこでも確認できるようになりました。

梅野氏は「本校では、"とにかく使ってみる" 時期はすでに終わり、効果的な活用の追求にシフトしています」と強調します。効果的な活用とは、言い換えれば、学習効果を目に見えるものとし、ICT 導入の成果を生徒たちに還元すること。全教科の教員が授業内でファシリテーターの役割を実践し、生徒自らが授業のねらいや個々の目標に向かっていけるような学校を目指しているとのことです。

そのうえで同校では、将来的に Google フォームを活用して小中学校 9 年間の学びをつなげ、子どもたちが各教科で苦手な部分を振り返り、そのデータを活用して教員が効果的にサポートできるような未来像を描いています。

最後に梅野氏は、ICT 導入が思うように進んでいない学校に向け、次のようなメッセージを送ってくれました。

「ICT に詳しい一部の教員や情報担当が活用を推進していくケースが多いですが、それでは限界がありますし、格差も生まれてし

まいます。相模原市は全市一丸で取り組んでいこうとしており、本校のような事例もどんどん吸い上げ、発信しています。また学校内でも、カリキュラム編成などを把握し、ICT をどう教育に取り入れていくべきかをより俯瞰的に見られる立場の教員が推進役となり、組織全体で進めていくことが必要だと考えています」

取材日: 2022 年 9 月 12 日

Google for Education

いつでも、どこでも、予算に応じて使える
教育テクノロジーソリューションです。

Google for Education の特徴
- 簡単操作
- 手ごろな価格
- 高い汎用性
- 高い効果

1 chromebook
教育向けに設計され、授業向けに開発された
軽量で耐久性の高い共有可能なノートパソコン

2 Google Classroom
教師と児童生徒向けに構築された
学習プラットフォーム

3 Google Workspace for Education
時間や場所を問わず学校全体で共同利用できる
クラウド型教育プラット フォーム

4 Chrome Education Upgrade
1 つの端末から同じドメインのすべての
Chromebook を設定
シンプルなクラウド型管理コンソール

Google for Education

お問い合わせ事務局 0120-905-860（平日 9:00-18:00） gfe-jp-isr@google.com

Google for Education の詳細については、右記 URL、もしくは QR コードからアクセスしていただくか、同ページ「お問い合わせ」よりお問い合わせください。 © Copyright 2022 Google
Google for Education、Chromebook、Google Meet、Google ドキュメント、Google スライド、Google スプレッドシート、Google Jamboard、Google カレンダー は、Google LLC の商標です。その他すべての社名および製品名は、それぞれ該当する企業の商標である可能性があります。

お問い合わせはこちらから
https://g.co/edu